②長柄橋周辺の堤防上の景観

長柄橋

JR上淀川橋梁

長柄橋の上空を飛行する航空機

長柄橋

長柄橋は明治42年におよそ千年ぶりに復活しますが、それ以前は、一方では「ものいわじ　父は長柄の橋柱　なかずば雉も　射られざらまし」という民衆に伝わる「長柄の人柱」伝説として、もう一方では貴族階級の和歌文化で、長柄＝永らえるという名前と裏腹に断絶してしまっていることに、「もののあわれ」「諸行無常」を意味する歌枕として流布するという、伝説上の橋でした。

その後昭和11年に架け替えられますが、第2次大戦末期の空襲により、橋の下に避難していた多数の人々が犠牲となりました。戦後は長柄橋北詰の交通渋滞解消のため、昭和39年に現在のループ型バイパスが継ぎたされます。そして昭和55年に現在の新しい橋が架けられますが、ループ橋との接続工事が完了し全面供与されたのは昭和58年です。逆P型の珍しい橋です。

大阪国際空港（伊丹空港）へ着陸する航空機が、長柄橋の真上から水道記念館上空を飛行する姿が見られます。左奥の高層建築は（株）キーエンスの本社ビルです。

ＪＲ東海道線の上淀川橋梁が見えます。3本の鉄橋、計6車線あり、新大阪駅―大阪駅間にありますので、様々な特急列車が見ることができるスポットです。

また、長柄橋の東側には阪急千里線の淀川鉄橋があり、阪急電車と地下鉄も見ることができます。

このように、長柄橋周辺の堤防は、乗り物好きの子供たちにも喜ばれるスポットだと思います。

③薬師堂

薬師堂

力石

薬師堂村の薬師如来

薬師堂村は明治時代の淀川の流れを変える工事の際に、村の全部が淀川の敷地になりました。この時、薬師堂村の名前の由来になっている薬師如来のお堂が村民と一緒に移転してきました。そのため、「薬師堂村の薬師如来」と呼ばれています。

「柴島中学校」西沿いの道にお堂があります。また、頭彰碑が平成14年（2002年1月）に設置されました。

薬師如来は医王如来（いおうにょらい）、大医王仏（だいいおうぶつ）とも呼ばれる、如来の中でもちょっと特別な仏さまです。他の如来と違って、死んだ後の安らぎを与えてくださるのではなく、生きている間の現実の世界で安らぎを与えてくださるというところ。「今助けてくださる」仏さま、それが薬師如来です。

『おんころころせんだりまとうぎそわか』

と真言を唱えてみれば、ご利益があるかもしれません。

頭彰碑

④法華寺

聖武天皇は、全国に国分寺と国分尼寺を置くように命じました。摂津国分尼寺にあたるといわれています。寛永16年（1639年）に儒信家であった吉田忠次が堂宇（神仏が祭ってある建物）を寄進し、曹洞宗の禅寺法華寺として知られるようになりました。当時、柴島浄水場付近に再建されましたが、大正3年（1914年）に浄水場建設のため、現在地に移転しました。

境内には、鎌倉期のものとみられる石造古五層塔があり、山門の右にある地蔵堂には、弘法大師が爪で刻んだといわれる「爪引（つめびき）地蔵（じぞう）」が祀られている。

⑤柴島城址

柴島城址の碑

柴島城址

柴島城址の碑は住宅地の中にあります。

現在、遺構などは残っていませんが、『新修大阪市史 第2巻』に戦の舞台になったことも記載されています。

『東淀川区史』には他より4尺高地の部分が城址とされています。『国土地理院 地理院地図』の陰影起伏図で地域を確認するとちょうど、柴島中学校の位置がその場所ではないかと推測されます。

柴島中学校の周辺で「本丸」「城道」「屋敷」「西屋敷」等の字名が残っているとのことなのですが、訪問した際には、全く気づかなかったので再度訪問する際には気にして調べてみようかと思います。

⑥柴島神社

柴島神社社殿

紅白の鳥居

柴島神社

・白い鳥居（摂社‥仲哀天皇社）御祭神：仲哀天皇・仁徳天皇

往古、仲哀天皇（日本の第14代天皇）が三韓へ向かわれる途中悪天候のため、この地へ上陸され、梅谷新五郎の家にて日和り待ちの間ご逗留になされた時、村人達がご接待申し上げたのを深くお喜びになり、やがて天候回復し御乗船のみぎりお名残を惜しまれて、自ら天皇の木像を作り残されたそうです。鳥居の色が白いのは、神社の方にお話しをお聴きしたところ、もともとは黒っぽい色を白色に塗り替えようです。確かにその痕跡が写真からわかりますが、なぜ、白色なのかわかりません。紅白で縁起を担いだのかもしれません。

・赤い鳥居（末社‥住吉神社）

御祭神：住吉大神・稲荷大神・水浪能売神（みづはのめのかみ）

住吉大神は水上交通の守護神として、稲荷大神は昔から農業・商工業にご利益のある神様として、そして水浪能売神は昔からすべての生物に欠かせない水を司る神様としてそれぞれ信仰されています。また、水浪能売神は、飲み水となる淀川の水や井戸水以前は地場産業として晒し・友禅業者や飲料水を扱う業者かから“水神さん”の愛称で親しまれています。「柴島神社しおり」参考。

2対のユニークな表情の狛犬たち

白い鳥居の仲哀天皇社にはユニークな表情の狛犬たちが構えています。745（延享2）年の造りの狛犬たち。神社の方にお話しを聴くと、長い年年月、雨風に打たれて、角が取れて、このような表情豊かなお顔になったのではないかとのことでした。

境内にある柴島晒ゆかりの地の碑

柴島晒

その昔、柴島一帯では、淀川の水を利用して木綿を洗い、それを干して乾燥させ、陽に当てることで白くするという晒業が営まれていました。『摂津名所図会大成』という書物には、淀川の堤防上に白く敷き詰められた木綿が、まるで雪が積もったようで、たいへん美しかったと記されています。

この晒業は、淀川の改築工事や柴島浄水場の建設などの影響により、衰えていました。東淀川区で現在でも晒業を営んでいるところといえば、山田晒染工業（株）と飯田繊工（株）ぐらいしか残っていないかと思います。